

JAグループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 8 3 号

【平成 27 年 12 月 1 日（火）発行】
発行：JAグループ宮城災害復興本部
編集：JA宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. 「復興から飛躍へ」第 38 回 JA 宮城県大会開催
2. 「いいものまるしえ」で県産農畜産物のおいしさアピール
3. 省力化・低コスト対策など提案。担い手営農復興支援フェスタ
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 51 次請求

1. 「復興から飛躍へ」第 38 回 JA 宮城県大会開催

JA宮城中央会は11月19日、仙台国際センターで第38回JA宮城県大会を開きました。「復興から飛躍へ」をテーマに、今後3年間に取り組む4つの実践事項を掲げ、「力強い農業と豊かな地域づくり」を進めることを決議しました。また、TPPの大筋合意は到底容認できず、国会決議との徹底検証と情報開示を通じた国民的議論を強く求める、との特別決議を採択しました。



開会挨拶をする中央会の石川会長

村井嘉浩知事や地元選出国會議員などの来賓を含めて約1,000人が参加しました。東日本大震災から4年8カ月が過ぎましたが、復興はまだ道半ばにあるため、協同の力を結集して、さらに一歩前に踏み出し「復興から飛躍」を目指すことを確認しました。

具体的には、①持続可能な農業の実現による宮城県農業の復権②豊かな農村地域社会の創造③農業と農村を支えるJA経営の確立④新たな組織再編構想の実現——に取り組めます。

中央会の石川壽一会長は「それぞれの地域・JAで農業振興とJA事業の発展、協同組合運動のさらなる推進に取り組む」と決意を述べました。

大会では、第7回オリザ賞の表彰式も行い、大賞の三田鳥営農組合（栗原市）、準大賞の宮城県農業高校（名取市）、特別賞の口たじりエコベジタブルを表彰しました。

また、慶應義塾大学経済学部の金子勝教授が「農業の再生なくして地域の再生はない」と題し

て記念講演しました。金子教授は「雇用も賃金も伸びておらず『アベノミクス』は失敗しているが、誰も検証していない。『アベノミクス』は日本を売り渡しており、TPPで日本は良くなる。一時金ではなく、JAは恒久対策を要求するべきだ」と語りました。

2. 「いいものまるしえ」で県産農畜産物のおいしさアピール

JAグループ宮城「県産県消」推進協議会は11月14日、県内JAの農畜産物を一堂に集めた「いいものまるしえ」を仙台市泉区の大型商業施設Tapio(タピオ)で開きました。トマトやイチゴ、キュウリなどの新鮮野菜の他、新米おにぎりや「仙台牛」なども試食してもらい、県産農畜産物のおいしさのアピールしました。



伊達武将隊も駆けつけ、会場を盛り上げました

「しいたけたっぷりカレー」「ベジかま」「ソイチヨコ」と「まとケチャップ」など、各JA自慢の6次化商品も試食、販売しました。

先着限定30人ずつで野菜の詰め放題を2回実施。参加者は1回300円でニンジン、タマネギ、ジャガイモを器いっぱい詰めて、笑顔で持ち帰りました。また、ジャンボカボチャの重さあてゲームや餅つき体験は、子どもたちを楽しませました。

3. 省力化・低コスト対策など提案。担い手営農復興支援フェスタ

JAグループ宮城は11月20、21日、仙台市の夢メッセみやぎで、「担い手営農復興支援フェスタ 2015 in 宮城」を開きました。農機メーカー各社がトラクターやコンバイン、草刈り機など最新型の農機や省力化機械を展示。鉄コーティング水稻直播の体験コーナーなども設け、低コスト対策を提案しました。



メーカー担当者の説明を聞く来場者

会場には、農機レンタル、営農資材、肥料、農薬など、農家所得の向上に役立つ情報を紹介するブースがずらりと並びました。

4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第51次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は11月30日、東電に対し第51次請求として2,626万円を請求しました。

内訳は、牧草の利用自粛等にかかわる損害が1,400万円、牧草地の除染にかかわる損害が1,226万円となっています。